

令和6年度 事業報告

公益社団法人スコーレ家庭教育振興協会

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

<概況>

本協会は1980年7月26日に創立され、昨年44周年を迎えた。創立以来、家族の絆を強めて家庭の再生を図る生き方を社会に提唱し続け、幅広い生涯学習に取り組んできた。家庭崩壊の危機が一段と深刻化している今日、本協会の理念と長年にわたる活動実績が国内外から、家庭教育を中心とする生涯学習団体として高く評価されている。

組織面では、新たに制定された公益法人法に基づいて、内閣総理大臣から「公益社団法人」として認定され、平成26年4月1日に移行・設立した。

事業運営面では、公益目的事業推進のために、首都圏南、首都圏北、北関東、東海、近畿、中国などの地区において、組織・普及・研修・事務局体制のさらなる充実を図り、未来に向けたビジョン作りを本格的に推進してきた。

令和4年7月26日付にて、創立時より本協会をリードしてきた永池榮吉会長が名誉会長に就任し、新会長として永池豊理事が就任した。

今年度は、創立45周年を見据え、コロナ禍以前の状況に戻すべく対面を中心とした活動を積極的に推進した。中でも早朝研修については、創立45周年のスローガンとして、出席者の「年間延べ人数40万人達成」を掲げ、出席者数の増強を図った。

また、協会全体に及ぶ、制度面、学習・研修面の改革に向けた検討をさらに進め、新たな仕組み作りを図った。

さらに、創立45周年の記念事業として全国4カ所にて記念大会を開催することを決定し、準備をスタートさせるとともに、首都圏南・首都圏北・北関東・東海・近畿・中国の主要6地区をはじめとした各地のビジョンの実現に向けて取り組んだ。

<事業活動>

I. 家庭教育の振興

- (1) 各地の教育委員会や幼稚園、小学校PTA等からの講演会の講師派遣の要請を受け、今年度は延べ360名を対象に実施した。
- (2) 各地の教育委員会より198回の後援や学校等の協力を得て、若いお母さんを対象にオンライン中心の「家庭教育講座」を開催して好評を得た。また、「子育てセミナー」は、規模を最小限に抑えて感染対策を徹底した上で開催し、受講者の子育ての悩みやトラブルの解決に向けて、適切なアドバイスをした。これらの講座開催は1,180回に及び、延べ14,425人（前年比▲2,549人）が受講した。

- (3) 協会の 57 人のカウンセラーによるカウンセリングは、各地区で定期的実施され、多くの会員の悩みや問題の解決に役立っている。
- (4) 成人男性対象の組織『スコーレ・マスターズ』は、オンラインによる全国規模の学習会を開催して、遠隔地を含む幅広い参加があり、男性会員にとっての貴重な学習機会となった他、今年度は、対面によるボイストレーニングをコロナ禍以降はじめて首都圏で行なった。
- (5) 熟年女性対象の組織『スコーレ・グレイセス』は、今年度は、腹式呼吸と発声を目的とした「グレイセス・ヴォーチェ」や対面による「生き生きトレーニング」を中心に活動を行なった。

II. 研修の実施

- (1) 「早朝研修」は全国の会場で毎朝開催している。今年度は、会場とオンラインの併用開催が中心となり、延べ人数は 343,665 人（前年比+11,619 人）に上った。
- (2) ボイストレーニングを主体とした「心身開発トレーニング」は、対面開催が本格化し、延べ 7,841 人（▲240 人）が受講した。
- (3) お母さんがゲーム感覚で子供と共感体験できる「ふれあいトレーニング」、寝たきりや転倒防止を図る「生き生きトレーニング」を開催し、併せて、指導者を養成している。
- (4) 「家庭教育講座」の講師として、今年度新たに 5 人が「本部講師検定試験」に合格し、現在 46 人の講師が全国の家庭教育講座を担当している。
- (5) 心身開発、ふれあい、生き活きの各トレーナーを認定する「トレーナー審査会」について、今年度は開催しなかった。現在、全国で有資格者 177 人が各地区で活躍している。
- (6) 若手指導者養成のための「リーダー研修」「実践者研修」等の研修を、対面を中心に実施し、合せて 4,959 人（▲448 人）が受講した。
- (7) 会員向けの『自己発見の旅』学習は 39 人が受講修了し、修了者は延べ 2,825 人となった。

III. 研究プロジェクトの実施

- (1) 入会後に取り組む『スタート』学習、その後『ステップ・UP』学習を経て『自己発見の旅』学習を受講してレベルアップを図る学習プログラムが定着している。特に『スタート』学習、『ステップ・UP』学習については、アプリ版のテキストを積極的に活用して、両学習の促進を図った。
- (2) スコーレが提唱する生涯学習の場として、「生きがい講座」の開催に一昨年から取り組んでおり、今年度は 2 カ所で開催したほか、講座の内容をさらに充実化させるための検討も行った。
- (3) 一部賛助会員からの要請により、社員教育の一環として講師・トレーナーを派遣し、

ボイストレーニング・ふれあいトレーニングなどを中心に実施している。
今年度は、8回開催した。

IV. ボランティア活動の推進、及び他の団体との連携

- (1) ベルマーク収集活動は、今年度の集票点数は 335,878 点であった。創立以来のベルマーク収集の全国累計は 2,400 万点を超えている。
- (2) 第 46 回ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」では、街頭での募金活動を全国 43 か所で 522 人が参加して開催し、1,809,651 円を公益財団法人日本ユニセフ協会に収めた。
- (3) 使用済み切手の収集は、124.7kg となった。これらは公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会に寄贈し、海外の医療・社会衛生分野への支援を行うほか、社会福祉法人「聖明園」にも送った。
- (4) 未使用ハガキの収集枚数は、3,266 枚となり、学校法人「アジア学院」への援助などに活用されている。
- (5) 日本学術会議会員（学術研究団体）の「日本家庭教育学会」の運営に協力し、同学会が認定する「家庭教育師」に新たに 2 人が認定され、現在 27 人が認定者となっている。

V. 普及事業

- (1) 月刊『すこ〜れ』（通巻 528 号）は、生涯学習誌として、内外の好評を得ている。
- (2) 平成 30 年 7 月創刊の季刊冊子「スコレフレンズ」は、一般向け広報誌として、講座案内用のチラシとセットで配布されている。
- (3) 令和 3 年 1 月にリニューアルした協会公式ホームページでは、各地の家庭教育講座の受講申し込みが HP を通じて行えるようにし、また最新の講座のチラシを一覧できる機能も付加した。また、ネットを通じた外部からの寄付の申し込みを促進するための寄付募集ページを開設した。
- (4) 相模原市の地元紙「相模経済新聞」に、子育て中の父親向け企画として、Q&A 方式のコラム「お父さんのお悩み相談室」を毎月、連載した。
- (5) 女性講師のブックレット「お母さんへのメッセージ」（5 巻）は、子育て中のお母さん方に助言の書として広く活用されている。
- (6) 「ボランティア通信」（通巻 60 号）を年 2 回 10,000 部発行し、全国の収集ボランティア協力者に広く読まれている。

VI. その他の事業

令和 3 年 9 月より、本協会が所有している建物の一部（1 階 175.18 m²）を、障害者総合支援法に基づいた事業を展開する一般社団法人ディーセントワールドに賃貸し、収益事業として運営している。

VII. 会員動向

会員等区分の名称	令和 6 年 3 月 31 日	令和 7 年 3 月 31 日	前年比
一般会員	16,718 人	15,947 人	95%
特別会員	8,975 人	9,080 人	101%
合計	25,693 人	25,027 人	97%
賛助会員	7 社	8 社	114%

以 上